



2019年3月20日

## 膵臓がんに対する免疫細胞治療の解析結果に関する論文が 学術誌『Anticancer Research』に掲載されました。

医療法人社団混志会瀬田クリニックグループは、進行・再発膵臓がんに対する免疫細胞治療の治療効果を検証するため後ろ向き調査研究(過去のデータを調査・分析する研究)を行い、本研究結果をまとめた学術論文(\*1)が、がん免疫分野の学術誌『Anticancer Research』に掲載されましたのでお知らせいたします。

膵臓がんは、診断がついたときには既に進行している事が多く、手術での切除が難しい疾患です。また、手術を受けられたとしても再発の可能性が高い難治性疾患であるため、新たな治療方法が望まれています。今世紀に入ってゲムシタビン、TS-1 やアブラキサンなどの薬剤、また FOLFIRINOX という多剤併用治療が生存率を改善してきてはいるものの、まだ納得のいくものではありません。2017年の調査(\*2)における部位別のがん死亡者数では、男性で5位、女性で3位と、依然上位を占めており、5年相対生存率(5年後に生存している人の割合)が男性7.9%、女性7.4%、10年相対生存率(10年後に生存している人の割合)にいたっては男性4.6%、女性4.8%と極めて予後が不良です。

本研究では、1999年から2015年の間に、瀬田クリニックグループを受診した進行・再発膵臓がん990名と、治癒切除後の再発予防目的に治療を受けられた50名(どちらも組織型は腺がん)を対象に、免疫細胞治療(アルファ・ベータT細胞療法又は樹状細胞ワクチン療法)の治療効果について検討しました。

### [今回確認された主な研究結果]

- PS(performance status)が0-1の全身状態が良い早期に治療を開始し、抗がん剤や放射線治療などの他の治療と免疫細胞治療を併用することで、有意な結果が得られた(\*3)。
- 免疫細胞治療では、アルファ・ベータT細胞療法と樹状細胞ワクチン治療を併用することで、有意な結果が得られた(\*3)。
- 免疫細胞治療に関連する重大な有害事象は確認されなかった。

本研究より、全身状態が良い時期に免疫細胞治療を併用することで、患者さんの生存を延長し得ることが示唆されました。免疫応答の強化によるがん治療はがん治療の基本であり、抗がん剤治療、放射線治療など他のがん治療と併用することにより、相乗効果が十分に期待されます。また、近年、がん治療分野において大きな話題となっている免疫チェックポイント阻害薬(\*4)は、患者さんの体内免疫応答を強化する免疫細胞治療と併用することでさらなる相乗効果が期待され、現在その安全性の臨床試験を実施しております。

瀬田クリニックグループは今後も、臨床現場で得た最新の知見や研究結果等を速やかに治療に応用するとともに、研究成果に係る情報発信やがん治療に貢献すべく研鑽を積んで参ります。

以上

本件に関するお問い合わせ:

医療法人社団 滉志会 法人本部

東京都港区西麻布 3-6-6 ルート西麻布ビル 4F

TEL: 03-5860-2393 URL: <http://www.j-immunother.com/>

Email: [info@j-immunother.com](mailto:info@j-immunother.com)

- \*1 Prognostic Factors for Pancreatic Cancer Patients Treated with Immune-cell Therapy.
- \*2 国立がん研究センター がん情報サービス 最新のがん統計 2017
- \*3 各因子での多変量解析結果。
  - ・全身状態が良い PS 0-1 群が、PS 2-4 群に比して有意差( $P < 0.0001$ )が認められた。
  - ・免疫細胞治療に化学療法を併用した群が、併用をしない群に比して有意差( $P = 0.0023$ )が認められた。
  - ・免疫細胞治療に放射線療法を併用した群が、併用をしない群に比して有意差( $P = 0.0036$ )が認められた。
  - ・免疫細胞治療で、アルファ・ベータ T 細胞療法と樹状細胞ワクチン療法を併用した群が、併用をしない単独治療群に比して有意差( $P < 0.0001$ )が認められた。
- \*4 免疫チェックポイント阻害薬:がん細胞によりブレーキがかかった状態にある T リンパ球の攻撃性を回復し、抗腫瘍効果を誘導・発揮する働きをもつ抗体医薬。

**【 瀬田クリニックグループについて 】**

1999年3月、免疫細胞治療の専門医療機関として「瀬田クリニック」(現:瀬田クリニック東京(東京都千代田区))を開院以来、瀬田クリニックグループ全体で21,000名を超える患者さんに対し、17.7万回以上の治療を提供しています(2018年9月現在)。2009年に設置した臨床研究センター(現:臨床研究・治験センター)では、開院以来の治療実績から抽出した臨床データの解析に加え、大学病院、地域中核医療機関等との共同臨床研究を行い、Evidenceの強化、治療効果の更なる向上に取り組んでいます。